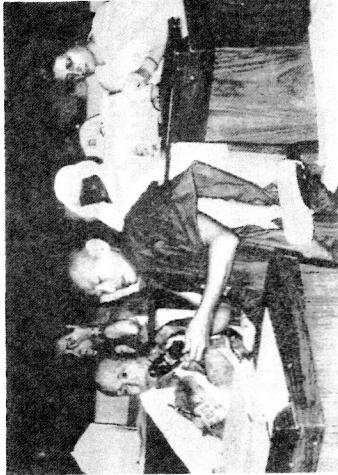


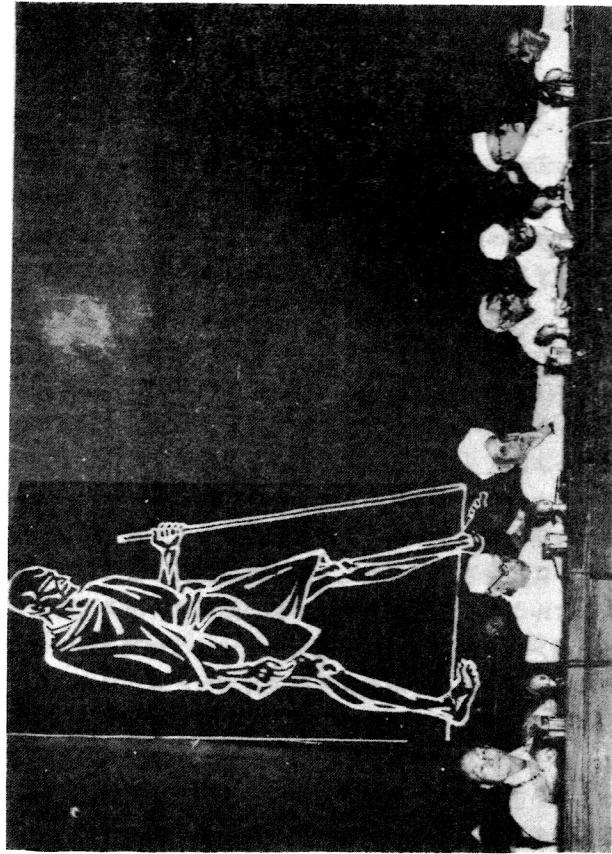
世界平和の礎として

藤井 日達



私がインドに来たのはい
まから二〇余年前であります。ちょうどガンディー翁
が、反英独立運動を起こしており、塙行進をして監獄
へ入れられているところでし
た。

日蓮聖人の教えによりま
すと「日本の仏法門氏に還
る」と申しまして、世界の
争いの時代、「闇靜堅固」
と申しますが、戦争時代
に、平和を作る教えとして



1960年ニューデリー核兵器禁止国際会議より(左端が筆者)

の日本の仏法、それがインドに広まるという予言があります。

このお言葉に深く感激いたしました、私は宗教家としてお太鼓二張を持ってインドへ來ました。当時日本は世界の強国として栄えていました。それでガンディー翁のこの独立運動を嫌っていた英國は日本人がガンディー一門に会うことを禁止するような状態でしたが、私は翁の運動が正しいと信じて会いに行きました。そしてこの運動を成功させるべく祈るの
が、お祖師様の本意に叶うと信じて祈りました。祈るといつ
ても、ただ、お太鼓を擊つだけがありました。

コングレスの大會であらうと、どこであらうと、私は嫌わ
ずお太鼓を擊ちました。そんなご縁につながれて、カルカッタのお寺はビルラ長者のご供養で建ちました。ビルラ・ジ
ーの一手でできあがりました。ボンベイのお寺もそうであり

ます。

王舎城は今度復興の端緒につきましたが、ここは釈尊一代の大重要な大乗經典が説かれたところであります。法華八年の会座であります。

インド独立のご祈念の対象として、私はこの王舎城の復興を念じました。そして在印期間の多くをここで過したのであります。当時はお寺がありませんので、ビルマのお寺や、ヒンドゥー教のお寺や、巡礼者の宿泊所等をかりて何年かご修行しました。

当時石橋先生（現在、石橋行寿上人）が、日綿の支店長としてカルカッタに住んでおられました。たまたま土地買収のお話を持ち上がりまして、やつと土地が見つかったときに、石橋先生の奥さんがご自分の貯蓄を傾けて買って下さいました。それでいまの小さなお寺が建ちました。あのお寺は煉瓦を自分で焼いて作ったのです。その費用はみんな石橋先生が供養されました。そして、カルカッタから、毎週土曜、日曜は王舎城に通って工事を進展させるために監督をされました。

ジャングルの中の道をかき分けるようにして、日の出前に靈山に到着せねばなりません。臘八のお断食も何回か致しながら、旭日の出のご祈念を続けました。

インドは独立後、ボリダガヤ、ルンビニ等はたいそうよくなりましたが、王舎城はまだあります。よくなつたところもありますが、それはビンバサラ王の息子のアジャセ大王が

した。

世界平和を作るといはば、一五〇〇年の平和を作つたこの教えを再検討せねばなりません。これが人類の究極の方針であります。私はかくの如く信じて王倉城復興を誓願しています。

もと佛教を生んだインドのネル・首相が、今まで現代の平和を指導する第一人者でした。シャストリ・首相もこれをうけついで、ぜひ世界平和の指導権をとつて、民衆こそ、平和建設の原動力なのであるから、印度と日本の人人が手をつなげ、東洋に世界平和の基点を作りたいものであります。

我田引水の夢物語かも知れませんが、私はかくの如く信じてきました。お弟子も苦しい立場に立ち続けており、数も少ないのですが、この苦難に耐えて動いております。この姿が早晚世界平和の中心になります。

原水爆禁止運動も立正安國論が、中心になつたときに建て直せます。世界の平和運動の中心が、日蓮聖人によつて導かれるとときに、眞実の平和がきます。かくの如く信じて動いています。

(昭和四〇年二月号の本誌より再掲載)

ビハール州首相

ラムスンダル・ダース閣下

一九七九年九月二〇日 バトナ

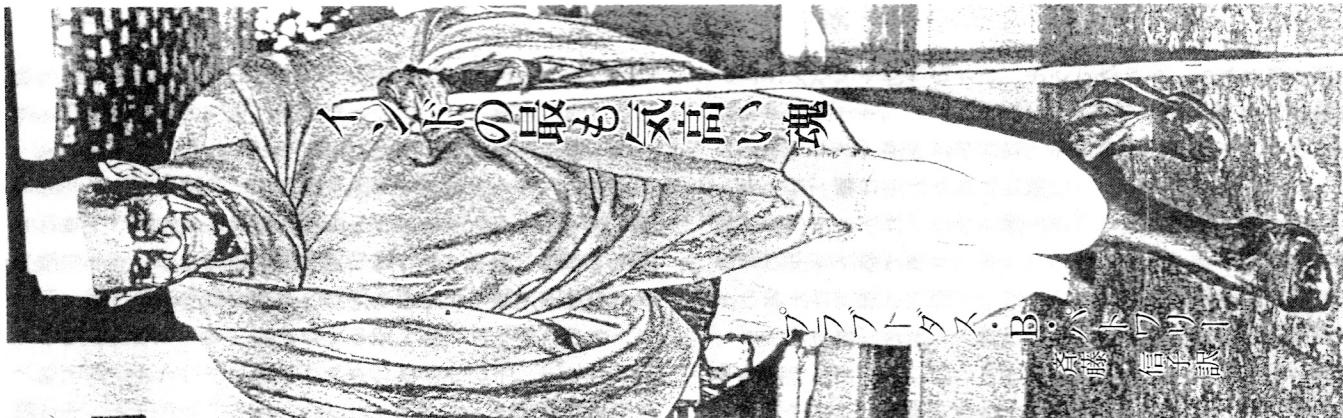
J・P・ナーラヤン

王倉城に計画されております国際仏教大学ならびにアーチャーリヤ・ジワク・アーユトルウェーダ診療所の建設に關し、本書簡を差し上げます。

この大学は佛教聖典の勉学および研究の中心となるもので、一流の図書館を備えるとともに、引退した学者のための宿舎の併設も予定しております。また、診療所では葉草から精製した薬による治療の他に、鍼灸治療も実施する計画です。

しかし、この大学・診療所の建設にあたつては、約三〇エーカーの用地が必要とされ、それに見合ひ適地が王倉城靈鷲山のすぐ近くにあります。しかし、当局は全く関心を示しません。多分、その該当地が考古局の管轄下にあることが二因となつてゐるようです。私が聞き及ぶ限りでは、その土地には歴史的価値を有する遺蹟の痕跡もない由であります。したがつて、上記の大学および診療所の建設用地として速やかに土地を提供されることを希望します。

歴尊縁りの靈地に、以上のような目的をもつた大学および診療所が建設されることは、大いに意義あることであります。よつて、閣下が積極的に関心をもたれ、この計画推進の前提となる土地が取得できるよう、早急に手を打つて頂きたく、切にお願いする次第です。



我々の國には非凡なる神の人がいます。五〇年前に、ガンディー翁はその人にいました。

「もし、神がお許し賜うなら、そしてあなたが私に対し、とくに寛大になつて下さるのなら、ぜひ、あなたと座を代わつて頂きたいのです」と。

あの著名なルクミニデヴィ・アルンダレも最近こういつています。

「私は世界中をめぐり、心に残る人がとにかくたくさんお会いしましたが、彼のような人はめったに出会えるものではありません」。

これはだれのことなのでしょう。それはガンディー翁のつましい代行者であるラヴィ・シャンカール・マハラジュのこと

です。ゲジャラートを活躍の場とした人です。人びとは彼のことを最愛の情をこめて「ダダ」と呼びます。彼はことしのシバラトリ(旧暦三月に行われるシバシンの祭り)のよき日に、その高貴な人生の九七年目を迎えるのです。

ヴィノバ翁の言葉によりますと、「ダダは、慈愛の神である」。

カカサベ・カーレルカルは「彼のなかに、無私の愛の神をみた」とい、飢饉や洪水で筆舌に尽しがたい苦しみを受けてきた農民たちは、その人を「王侯のような乞食」だと思っています。

ダダの言葉一つで、膨大な救援事業のための資金を、国内外から集めることができます。

彼は自分のことを無知で単純で粗野な人間だと思つていま